

2024年9月10日

関係各位

一般社団法人 日本金融ジェロントロジー協会

社会福祉関係機関と金融機関の意見交換会（第7回）を実施しました

一般社団法人日本金融ジェロントロジー協会（会長：清水雅彦、以下「本協会」）は、「福祉と金融の連携強化に関する意見交換会」（以下、「意見交換会」）の第7回会合を、8月30日にオンラインで開催しました。

第7回意見交換会では、本協会学術顧問の駒村康平慶應義塾大学経済学部教授、同大学附属経済研究所ファイナンシャル・ジェロントロジー研究センターの尾川宏豪特任講師、金融機関からは、本協会の法人会員である銀行や信用金庫、証券、保険等の大手31社が参加しました。

冒頭、駒村教授から開催の挨拶とともに、昨年10月の本件中間報告書の発表と12月の特別セミナー開催について言及があった後、意見交換会の開催が当該発表等を挟み約2年ぶりとなることを踏まえ、当協会理事の田堂より本件テーマに関するこれまでの議論の経緯について説明を行いました。具体的には、第1回からの意見交換会の内容の振り返り、上記中間報告の概要と特別セミナーの様式、および慶應義塾大学が受託する内閣府の「戦略的イノベーション創造プログラム」の事業（以下、「SIP事業」）への参画等について説明を行いました。

本題に入り、駒村教授からは、SIP事業において取り組むテーマ「高齢者が生涯にわたって自立的に経済活動ができる包括的な社会経済システム構築」について、問題意識やその背景、および課題や関係省庁の政策動向等について解説がありました。その中で、「高齢社会は、認知機能に課題を抱える人が増えていく社会である」、「金融機関の店頭で起きている問題、特殊詐欺や投資詐欺といった問題は、一つ一つの事件というよりも社会問題である」、「経済取引のルールは、認知機能の十分ある人となない人の“2部制”だが、実際の認知機能の低下はグラデーション状に連続的に進んでいくものであり、金融の現場では“曖昧な状況”への対応が課題になる」等の指摘が述べられるとともに、「高齢者が、認知機能が低下しても自由に自分の財産を安心して使える社会を作っていくべき」との呼びかけがありました。

続いて、尾川先生からは、福祉と金融の連携強化に向けて具体的に研究・推進活動を行っている「金融包摂モデル事業」について、目指す姿やゴール、進捗状況等について解説があり、特に墨田区のモデル事業の推進を通じて得られた知見や重層的支援体制整備事業（支援会議）の活用と展望等について詳しい説明がありました。その中で、医療や介護の現場では、継続的な支援関係を通じて日常の金銭管理や財産管理、相続等に関する相談が少なくない一方で、そうした金融ニーズは見逃されがちであることを踏まえ、「金融機関と福祉関係機関は、相手が得意とするニーズ対応を持ち寄り、それを交換することで互惠関係を築くことができるのではないか」とのコメントがありました。

その後、事前にいただいたアンケート結果について共有するとともに、金融の現場における課題や対応について意見交換を行いました。ここでは、認知機能の低下が疑われる場面は様々あり、かかる情報は「お客様の財産の保護のために利用すべき」との回答が大部分である一方で、個人情報保護法やガイドライン上の関係から当該情報は記録として残していないとの回答が多数あり、課題を認識しました。

最後に、駒村教授より「認知機能低下に関する情報を共有して、顧客保護やトラブルの防止、適切な金融商品の紹介や新しいサービスの開発につなげていくことも考えていかないといけない」とのコメントがあり、高齢社会対策大綱の5年ぶりの改訂への言及や今後のイベントについての紹介がありました。

本協会では、引き続き社会福祉関係機関、金融機関双方の課題認識や取組事例、SIP 事業の進展等を踏まえ、次回の意見交換会を開催する予定です。間もなく発表される高齢社会対策大綱や今後の認知症施策推進基本計画の策定を控え、関係省庁との連携を図りながら課題の解決に向けた取り組みを遂行していきたいと考えております。

□ 参加金融機関（五十音順）

朝日信用金庫、足利銀行、池田泉州銀行、伊予銀行、SMBC 日興証券、オリックス銀行、かんぽ生命保険、紀陽銀行、佐賀銀行、山陰合同銀行、静岡銀行、住友生命保険、第一生命ホールディングス、第一フロンティア生命、東京東信用金庫、東洋証券、内藤証券、野村アセットマネジメント、野村証券、肥後銀行、広島銀行、福岡銀行、みずほ銀行、みずほ証券、みずほ信託銀行、三井住友銀行、三井住友信託銀行、三菱 UFJ 銀行、三菱 UFJ 信託銀行、明治安田生命保険、ゆうちょ銀行

□ 協会ウェブサイト

<http://www.jfgi.jp/>



□ お問い合わせ先

日本金融ジェロントロジー協会 inquiry@jfgi.jp

以 上